研究だより

入新井第五小学校
研究推進委員会
Ｒ６年１月２９日（月）
第　８　号

学校・学級に適応プロジェクト

３年　学級会　「ちがいをみとめ合って」

◎授業について

１月２９日（月）第８回となる校内での研究授業を行いました。題材は、「ちがいをみとめ合って」です。現在、日本には約３２２万人の外国人が在住しており、今後も、外国人在住者や観光客が増えていくと考えられます。事前にアンケートを実施した結果、子どもたちは、自分と異なる考えに対して肯定的に捉えていることや、勝手なイメージ・決めつけをすることは良くないことであると認識していることが分かりました。差別や偏見は良くないと分かっているものの、実際に外国人と関わる経験が乏しく、様々な身体的特徴や文化的特徴に触れる場面がほとんどないことも現状です。そこで、今後自分と異なる人種や文化の人と出会ったときに、違いを分かり合ったり、認め合ったりしながら「同じ人間」として関わることができる土壌を作る良いタイミングだと考え、本時の授業を行いました。

【導入（課題の把握）】事前に教師が用意した顔のイラストに一人ひとり色塗りをし、それを比べる活動をしました。教師からは、あえて肌の色を濃く塗ったイラストを提示し、子どもたちは全員がペールオレンジで肌の色を塗っていることから、無意識に「肌の色はこのような色」と思い込んでいることに気付きました。

【展開（原因の追究）】１２月に発行された、おおた区報の人権特集号を使って考えました。２ｍの身長や黒い肌、アフロヘアーという容姿によっていじめられた経験をもつ、副島淳さんに関する記事が書かれています。「自分だったら」「副島さんだったら」と思って記事の内容を聞くことで、「なんで自分だけこんな目にあわなきゃいけないんだ。」「みんなと見た目が違うだけなのに。」など、自分事として考えることができました。

【展開（課題解決等の話合い）】副島さんについて知った上で、周りの人たちとどのように関わっていけばよいかを考え、小集団で話し合いました。「友達の内面をちゃんと知る。」「見た目で判断しない。」など、たくさんの意見が出ました。班で話し合ったことを全体で共有することで、様々な考えに触れ、思考を広げることができました。

【終末（個人目標の意志決定）】話し合った内容を踏まえて、自分のめあてを考え、がんばりカードに記入しました。「だれにでも同じようにやさしくする。」「どんな人でも同じ人間だから、同じように接する。」など、学習を生かして、自分のめあてを考えることができました。

☆指導・講評

・３年生の発達段階を考えると、言語化することが難しかったり、経験が多くなかったりするため、自分事として考えるのが難しい。将来、子どもたちが実際に経験したときに、「あのとき考えたのはこういうことか。」と思えると今日の授業の意味が出てくる。

〇副島さんの記事を扱うときに、「自分だったらどうするか」と考えさせたことによって、子どもたちが当事者意識をもつことができた。

▲めあての「自分が気をつけることを決めよう」という文言が行動目標につながりにくい言葉である。

・課題→否定的　取り組み→肯定的　な意見が出てくる。

・「気をつける」「する」「できる」この３種類を使い分ける必要がある。